

ナス (ナス科)

千両2号、築陽

1 作業体系

月	5	6	7	8	9	10
作業体系	定植 ◎	-----	収穫 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	追肥	追肥	追肥

2 ここがポイント!

- ・生育適温は22~30℃で、17℃以下になると生育が止まります。
- ・肥切れすると着果不良や、果色が悪くなります。
- ・ナス科の連作を避けるが、接ぎ木苗を利用します。苗はガッチリした良い苗を選びます。

① 畑の準備

排水の良い土地を選びます。土作りが大切で、植え付け1ヶ月以上前に完熟堆肥・苦土石灰などを施し、深く耕しておきます。7~10日前までに基肥を施し、幅150~200cmで高さ30cm程度の畝を作り、黒マルチをします。

② 植え付け

一番花が咲く前が適期です。畝の中央に株間50~80cmで植え穴を掘り、植え付けの前日、植え穴にかん水しておきます。

植え付け後、風などに振り回されないよう、仮支柱を立て固定します。強くしぼりすぎないように注意します。

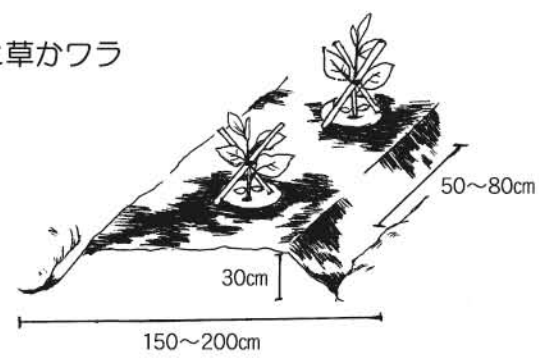
③ 支柱立て・整枝・剪定・誘引・葉かき

1株で主枝を4本残します。
V字型に本支柱を立て、主枝2本ずつを左右に振り分けて誘引します。
主枝から出る側枝は、蕾の上1枚葉を残して摘み取ります。収穫後、側枝の葉1枚残して切り取ります。
古い葉や混み合った所は、早めに葉をかき取ります。
株元まで光りを当てるのが大切です。



④ 敷き草

梅雨明け後、土の温度が上がりすぎるので、畝の上に草かワラを敷きます。



⑤ かん水・追肥

乾燥を嫌うのでかん水をこまめに行います。畝間のかん水は夕方から夜間にします。

追肥は、肥切れを起こさないように生育を確認しながら施用します。花の色が薄くなったり、雄しべの長さが短くならないよう注意します。

3 施肥設計

10m²あたりkg

肥料名 (窒素-リン酸-加里)	基 肥	追 肥	備 考
土力のおかげ堆肥	30~40		・追肥は分けて施用します。
苦土石灰	1.0~1.5		
BM苦土重焼燐 (0-35-0)	0.4		
発酵鶏糞 (2.4-7.5-4.4)	3.0~5.0		
野菜有機ペレット (10-5-7)	2.0	2.0	
野菜燐加安 S540 (15-14-10)		1.5	

4 収穫

果実が100gくらいになったら収穫します。

朝涼しいうち、へたのそばの白い部分が鮮やかな内に収穫することが大切です。

若採りを行い草勢低下を防ぐと、収穫期間が長くなります。

5 病虫害防除

土壌病害には連作を避けるとともに排水を図り、抵抗性台木に接ぎ木した苗を使います。

ナスは害虫に弱く、アブラムシ・ダニ (芽、葉)・テントウムシダマシ (葉)・ミナミキイロアザミウマ (果実) が被害を与えます。

草勢が弱るとウドンコ病等の発生をするので草勢を維持します。

6 豆知識

ナスの紫色はポリフェノールの一種アントシアニンであり、老化や疾病を抑制する抗酸化活性が高いです。油との相性が良く、素揚げや油炒めに合い、焼きナス・でんがく・かもなす・浅漬けやぬか漬けなど、日本の食文化の代表的食材となっています。

(ゆで)
 ビタミンA (カロテン) 98 μg
 ビタミンC 1 mg
 五訂 日本食品標準分析表より (100 gあたり)